

大学

アーカイヴズ

全国大学史資料協議会東日本部会会報

2007. 3. 31 No.36

Eastern Japan Section, The Japanese
Association of College and University
Archives

目 次

- ・ 豊田雅幸「小池聖一氏講演「大学文書館における個人文書の位相」を聞いて」…………… 1
- ・ 浅沼薫奈「全国研究会（テーマ「大学アーカイヴズにおける個人文書」）に参加して」… 3
- ・ 原豊「全国研究会（テーマ「大学アーカイヴズにおける個人文書」）に参加して」…………… 4
- ・ 豊田徳子「「文京ふるさと歴史館」見学会・巡見に参加して」…………… 6
- ・ 皆川義孝「荒井明夫氏「大東文化歴史資料館（大東アーカイブス）について」を聞いて」7
- ・ 全国大学史資料協議会2006年度総会議事録・記念講演記録（抄）…………… 9
- ・ 全国大学史資料協議会2006年度役員会議事録（抄）…………… 11
- ・ 全国大学史資料協議会東日本部会幹事会議事録（抄）…………… 12
- ・ 全国大学史資料協議会東日本部会研究会記録（抄）…………… 14
- ・ 全国大学史資料協議会東日本部会規約…………… 19
- ・ 全国大学史資料協議会東日本部会会員名簿…………… 21

2006年10月12日～14日 全国大学史資料協議会2006年度総会ならびに全国研究会・記念講演

小池聖一氏講演

「大学文書館における個人文書の位相

～広島大学文書館を一例に～」を聞いて

立教大学立教学院史資料センター 豊田 雅幸

全国大学史資料協議会2006年度総会の記念講演として、広島大学文書館長である小池聖一氏より、広島大学の事例をもとにした「大学文書館における個人文書の位相」と題する講演がなされた。

小池氏のお話は、明快かつ歯切れの良い口調もさることながら、大学アーカイヴズにおける個人文書を考える上で、実に示唆に富むものであった。

講演では、まず、大学文書館の設立要因を、①年史編纂事業、②大学あるいは学園の創設者等の顕彰、③情報公開法・個人情報保護法による公文書館、の三つに分類した上で、①

の限界性を指摘しつつ、②および③の重要性を強調し、大学文書館における個人文書は、②において中核となり、③において補助的な役割を担うのではないかと、との見解を示された。

そして、こうした観点から、広島大学における個人文書を、①建学の精神・理念の保存・継承を象徴する個人文書、②事務局文書を補完する個人文書、③大学史に関係する個人文書、④地域貢献事業に関連する個人文書、⑤卒業生（校友会・同窓会）等の個人文書に分類し、それぞれの特徴を紹介された。

先の指摘からもわかるように、この中でも、



講演する小池聖一氏

特に①に重点が置かれ、初代学長の「森戸辰男記念文庫」や、約5万点にもものぼる「平和学術文庫」、順次拡張が予定される「歴代学長文庫」が、その中核を占めているとのことである。

このような広島大学の現状を踏まえ、一般論としての個人文書を、a) 大学管理・運営関係個人文書、b) 教育・研究関係個人文書、に大別するとともに、①建学の精神・理念を象徴する個人文書、②大学運営・政策過程を補完する個人文書、③大学を規定する地域・社会関係の個人文書、④大学構成員の個人文書、という四つの類型が示された。

さらに、この類型に基づき、どのような資料を、いかに戦略的に収集するのか、そして、それらの個人文書が、どのような個別事業に役立っていくのか、という点について、広島大学の事例に触れつつ言及された。

小池氏による、こうした個人文書の捉え方、重点の置き方は、大学文書館そのものをどのように規定するのかという、より根本的な問題から発している。すなわち、大学文書館が「大学の個性化」にいかにか寄与するのか、図書館・博物館等学内他機関・部署といかに差別化をはかるのか、という問題である。したがって、大学文書館が所蔵すべき個人文書は、さまざまな分野を網羅するような「様式論」によるよりも、どのような機関たらんとするのかという、「機能論」によるべきであるとする。

それ故、広島大学における個人文書は、

「平和を希求する精神」との同大学の個性を意識したものであり、なおかつ、教育・研究分野に重点を置く博物館施設との差別化から、大学管理・運営関係個人文書に重点が置かれているという。

とはいえ、文書館の位置を、「公文書」と「個人文書」、「公共性」と「固有性」という二つの分類軸で見たとき、広島大学の現状は、いずれも前者に軸足を置いているため、両者のバランスを取ることで、地方国立大学としての個性を発揮していくことが、今後の課題であるとされた。

以上のような講演を聞き、自校の現状を翻って考えてみると、小池氏が示された文書館の姿とはかなりかけ離れてしまっているな、というのが正直なところである。というのも、我が校の場合、アーカイヴズセッションである「資料センター」が設立された要因は、まさに編纂事業を契機としたものである。なおかつ、これまでに収集された資料の分類・整理・保存に追われる日々の中、戦略的な個人文書の収集にまで手がまわらず、また、機関としての個性も、教育・研究分野に重点を置いたものとなっている。

各校のアーカイヴズセッションにおいても、年史編纂を契機としたところは少なくないであろうし、程度の差こそあれ、それぞれの大学が置かれた個別状況によって、その性格や今後の方向性が規定されているのではないだろうか。

もちろん、小池氏の講演の締めくくりにおいても、日本における大学アーカイヴズは、欧米モデルの「直訳的」なものではなく、多様なもの、個性的なものであってもよいのではないかと、との指摘があった。

本講演は、単に個人文書の話に止まらず、大学アーカイヴズのあり方、今後の可能性などに関する提言を含むもので、非常に多くのことを考えさせられる、大変有意義なものであった。

全国大学史資料協議会2006年度全国研究会

全国研究会 (テーマ「大学アーカイヴズにおける個人文書」)に参加して

大学大東文化歴史資料館 浅沼 薫奈

2006年度の全国研究会のテーマ「大学アーカイヴズにおける個人文書～個人文書の整理・公開の現状と課題～」を聞いたとき、はたしてどこに焦点が置かれることになるのだろうかと思った。一様に「個人文書」といっても、何を「個人」とするかで議論の対象が変わってくるし、一方で個々の大学の事情や時々の状況によって扱いたい「個人」資料は異なるだろうから、さまざまな定義がほぼ無尽蔵に成り立つことになる。また、個人情報保護問題のようにある意味で現代的な課題として追求することもできる。つまり、資料の収集・保存の問題としても、整理・公開の問題としても、きわめて広がりをもつテーマだということである。そして、まさに今回の研究会はその広がり可能性とを迫った幅広い報告と議論がなされたものであったと思う。

研究会に先がけ、「記念講演」として広島大学文書館長・小池聖一氏による「大学文書館における個人文書の位相 ～広島大学文書館を一例に～」が講演された。広島大学文書館における「個人文書」に関する活動を大きく5つに分類しての事例報告がなされ、さらには大学アーカイヴズが他の図書館・博物館等の機能と区分して独自の明確な機能を持ち得ること、「個人文書」の収集・分析はいかに広がりがあるかということ、その一方で個人情報保護問題や付随して発生する様々な規制についてをどう考えるかなど、テーマに関する悉皆的情報を与えてくれると同時に多くの課題も残されていることを示してくれるのであった。

研究会においては、三氏の報告があった。

甲南大学教授・高阪薫氏による「甲南学園創立者・平生夙三郎日記の翻刻・研究・教育・公開」、桃山学院史料室・玉置栄二氏による「柳原吉兵衛・貞次郎関係資料の受入・整理・公開」、名古屋大学大学文書資料室・堀田慎一郎氏による「大学アーカイヴズにおける個人文書の諸問題 ー名古屋大学の例を中心にー」という三報告を機軸に、研究討議が行われた。ここに示された三つのテーマだけを見ても、まったく異なる視点によって「個人文書」が取り上げられており、「個人文書」の持つ課題の多様性がわかる。

一般に、大学アーカイヴズにおける「個人文書」と聞いて最初にイメージするのは、おそらく学園の創設者、あるいは首脳陣や関係者にゆかりの資料およびその周辺資料であろう。これらの資料は、基本的にはまず建学理念を確認・理解していくために必要とされる。今回の報告では、そこからさらに踏み込んで、それらの資料を当該校だけでなく広く一般社会に対してその価値を還元していくために大学アーカイヴズとしては何ができるか、あるいは何をしなければならぬか、という課題に言及するものであった。また、大学アーカイヴズが受け入れて携わるべき「個人文書」の限界はあるのか。あるとすればどこなのか。その根拠は示せるのか。「個人文書」という性格ゆえに、整理・公開に関する制限はいかなるものが想定されるのか。

「個人文書」は「法人文書」「公文書」との対比として理解し整理されることもあるし、大学経営過程の確認のための補完的手段として収集・整理される場合もある。しかし、



全国研究会報告者および司会者

「個人」に関する資料であったとしても、個人が所有していた「個人的な」資料であったとしても、いずれにしても今日においていまだ「個人文書」の位置付けは必ずしも明確でなく、むしろ無差別に使用される場合が多い。「個人文書」と「私文書」とは明確に区分されるのか。特定の「個人」が寄贈した資料群として整理を行う必要と可能性はどう考慮するのか。そもそも“モンジョ”と読むか“ブンジョ”と読むかによっても相違が生じてくる…など、コトバの定義に関する疑問や指摘は今回の議論の中でも多く出された。

これらのことは、その存在にまだ曖昧さや突きつけられる大学アーカイヴズの抱えている課題の一端を表しているように感じる。もちろん国立と私立との相違や、個々の学校の歴史の違いはある。設定期や規模の違い、設立母体の有無のほかにも、歴史的に業績的に「有名な」創設者を持つところもあれば、その意味においてはそうでないところもある。それぞれのもつ事情によって大学アーカイヴズが存在理由は異なってくるのであり、言うまでもなく沿革史編纂事業のあとの資料整理のためだけに大学アーカイヴズが存在するわけでもない。それだけに、「個人文書」の収集や整理、公開についてそれぞれの事情を抱える大学が、それぞれ異なる課題について様々な議論を重ねていくことによって、大学アーカイヴズ全体の存在意義と可能性とを追求することに価値がある。言い換えれば、大学アーカイヴズの機能のもとで、原理的には資料を資料のままに扱うことが出来るのである。一昔前の大学アーカイヴズが置かれていた状況と比較すれば、とても贅沢な課題を抱えることが可能となってきたということなのだろう。

全国大学史資料協議会2006年度全国研究会

全国研究会

(テーマ「大学アーカイヴズにおける個人文書」)に参加して

明治学院歴史資料館 原 豊

1. はじめに

総会、全国研究会に初参加で緊張と期待で身が引き締まる思いで参加する中、全国大学史資料協議会2006年度総会ならびに全国研究会の第2日目にあたる10月13日(金)、広島大学図書館ライブラリーホールで「大学アーカイヴズにおける個人文書」のテーマで三人の方の報告を聞くことができた。簡単に三つ

の報告を紹介したい。三つの報告はそれぞれ日常、個人文書を扱う私にとって参考になり、大変興味深いものであったが、私が一番関心をもったのは最後のパネルディスカッションである。パネルディスカッションについては少し詳しく紹介したい。



2. 発題

最初に広島大学文書館の小宮山道夫氏により「大学アーカイヴズにおける個人文書」というテーマの発題があった。

3. 報告

報告① 高阪薫（甲南大学文学部教授）「甲南大学創業者 平生鈞三郎日記の教育と研究」

平生鈞三郎は、美濃国加納に1866（慶応2）年に生まれ、東京海上保険会社の専務取締役を勤め、文部大臣や枢密院顧問官を歴任した甲南学園の創業者である。川崎造船所の社長・会長を勤め、川崎造船所の再建にあたった。今回の報告は「平生鈞三郎の日記」を中心に、資料紹介があり、平生が、人生を「三分説」ということで、後半生を世のため人のために役立ちたいと考え、「社会奉仕」という言葉が1917（大正6）年ぐらいの日記にすでに出てくること等が紹介された。

報告② 玉置栄二（桃山学院史料室）「柳原吉兵衛・貞次郎関係資料の受入・整理・公開」

桃山学院は日本聖公会のキリスト教学校であり、柳原貞次郎は日本聖公会大阪教区主教であると同時に桃山学院の理事である。柳原吉兵衛は貞次郎の父で聖公会の信徒であり、直接桃山学院との関係はないが、次男直次郎氏も桃山学院の理事を務め、桃山学院とは浅からぬ関係がある。第1回目の寄贈として貞次郎の娘、榎田明子氏より寄贈を受ける。内容は貞次郎（故人）の著作およびその原稿と

故人と家族、関係者との間に交わされた手紙である。目録はアクセスで作成し、第1回目の寄贈は「柳原貞次郎主教史料目録」となり、第2回、3回の寄贈は「柳原吉兵衛史料目録」の「その1」「その2」「その3」となった。報告③堀田慎一郎（名古屋大学大学文書資料室）「大学文書資料室における個人寄贈文書の収集・整理・公開とその問題点」

報告は、名古屋大学大学文書資料室の個人寄贈文書の収集と公開、特に大学文書資料室として2005（平成17）年4月に施行された個人情報保護法との関係でどこまで公開するか、主に公開基準について「名古屋大学大学文書資料室利用規定」の説明がなされた。

4. パネルディスカッション

このあと個々の報告に対する質問の後、前日、基調講演をされた広島大学文書館の小池聖一氏も加わり、パネルディスカッションに移った。冒頭、名古屋大学の堀田氏に対して「私立大学のアーカイヴズと個人情報保護法に関連して、個人情報保護法では50条3項により、アーカイヴズは適用除外と書いてあるが、適用を受けるとどうなるか？」という確認の質問があり、堀田氏は「私立大学の場合も50条3項により、アーカイヴズは適用除外である。国立大学も私立大学に準じた公開基準をもうける必要があるのでは？公開基準は厳しいので真似する必要はないのでは？」と種々述べ、話題は個人情報保護法と公開基準の話に移っていった。広島大学の小池氏は「私立大学は独自に出来るのでは？、ただし、歴史資料に関しては、国立大学の場合、文書規定がある。私立大学はアーカイヴズがなくてもゆるやかに運用することが可能では？」、それに対して、堀田氏は「まったく異論はない。むしろ現行法は歴史資料について厳しいので、大学史資料協議会が提言して行くべきではないかと思う」、小池氏は「国立大学は総務省の管轄で文書規定で動いている。「公

文書等」の「等」の部分が大きくなっている。非常に曖昧。内閣文庫が公文書館の中にあるのが問題。」と指摘、これに対して掘田氏は「名古屋大学の大学文書資料室は、国立公文書館の規定に準拠している。公文書館とそうでないものは別にしていく必要がある。憲政記念館を参考にすべきでは？」という意見であった。ここで司会者が個人文書の問題に話題を転じ、「東北大学の永田さんが書いている個人文書とは（永田英明「大学アーカイヴズ資料論」、全国大学史資料協議会編『日本の大学アーカイヴズ』京都大学学術出版会、2005年、所収）、個人の手によってコレクションされた文書である、そこで個人文書をめぐる大学アーカイヴズの戦略を中心に、個々の大学の事例を」ということで、明治大学、広島大学、桃山学院、立教大学、関西学院、東海大学の個人文書の事例発表があった。最後の方で、甲南大学の高阪薫氏が「個人情報保護法について論じられているが、私は学問の自由を先にしたい。国立大学と違い私立大学

は自由に収集できる。国立型、私立型と型にはめる必要はない。豊かになればよい。アーカイヴズ全体の問題を考えるべき。平生鈎三郎のことも負や正があるが、時代の流れの中で史料価値を考えるべきでないか？」という発言があった。

5. 感想

甲南大学の高阪氏が最後の方でいわれた発言「個人情報保護法について論じられているが、私は学問の自由を先にしたい」がこの会をしめくくる卓見に思えた。この大会に出席して、まず「個人文書」なるものが、創立者などの個人に関する文書なのか、それとも個人が集めたコレクション文書なのか、曖昧なままに大会が始められたように思われ、その点を明確にして開催された方がよかったのではないかと思った。会の最後に掘田氏も必要性を訴えられたが、個人的には、個人情報保護法の法の不備について全国大学史資料協議会の今後の提言を期待したい。

2006年12月1日(金) 研究会

「文京ふるさと歴史館」見学会・巡見に参加して

東洋大学校友会 豊田 徳子

第53回の東日本部会研究会は見学会および巡見ということで、2006年12月1日(金)午後2時30分から、東京都文京区本郷4丁目にある「文京ふるさと歴史館」で行われた。同館は、1991(平成3)年4月の開館。春日通りから少し奥に入った閑静な場所にある。歴史館では、年間行事として常設展示はもちろんのこと、学習企画展・特別展などを行うほか、歴史講座(5~6月)や小・中学生のための歴史教室(8月)を開催するなど、幅広い年齢層の区民が文京区の歴史と文化を楽しみ、そしてわかりやすく学べるようにとさま

ざまな活動を行っている。

研究会は、最初に現在開催されている特別展を見学し、その後常設展示の見学に移り、最後は文学散歩として樋口一葉を中心とした文人たちの史跡をめぐるという順序で進められた。

まず、地下1階で開催されている特別展「徳川御三家江戸屋敷発掘物語—水戸黄門邸を探る—」。案内と説明は、加藤元信学芸員にいただいた。タイトルに「徳川御三家江戸屋敷発掘物語」とあるように、同時期に、新宿区立新宿歴史博物館では尾張徳川家の、



解説する東條幸太郎学芸員

千代田区立四番町歴史民俗資料館では紀州徳川家のそれぞれ長年にわたる屋敷跡の発掘成果を基にした展示会を開催しており、3館をめぐり歩くスタンプラリーも行われていた。歴史館の展示は、文書資料からはうかがえない水戸徳川家江戸藩邸の実態を遺跡発掘による成果を中心に明らかにしていることと、小石川屋敷の附属庭園であった後楽園が単なる庭園内の施設や花草木を鑑賞する場所であったばかりでなく、「動物舎」が設けられて「珍獣・奇獣」が飼育されていたり、日本を訪れた朝鮮通信使の接待の場としての役目を果たしていたなど、一般に知られていないその意外な歴史と文化を紹介しているのが特色である。

1階と2階の常設展示の案内と説明は、東條幸太郎学芸員にいただいた。1階は、本郷弥生町から出土した有名な弥生式土器、

大名・旗本や町人たちの暮らしぶりを示す展示をはじめとして、近現代にいたるまでの文京区の歴史を概観できるようになっている。江戸の町は、武士と町人によって独特の文化や産業が生み出された巨大都市であるが、なかでも「駒込のやっちゃば」など庶民たちの暮らしを生き生きと忠実に再現している模型が大変興味深かった。2階はテーマごとに展示がなされており、特に「文教のまち」の礎を築いた学者や文人たちの著書や書簡など豊富な資料の展示が目をつけた。

館内の見学を終えて、東條氏の案内により歴史館が作成した「史跡地図」を片手に、「菊坂界限」の著名な文人たちゆかりの史跡を巡見した。炭団坂、宮沢賢治旧居跡、樋口一葉旧居跡（井戸）、一葉ゆかりの旧伊勢屋質店、石川啄木ゆかりの蓋平館別荘跡、徳田秋声旧宅等々、急な坂道を上ったり下りたり……。文京区には115カ所もの坂があり、そのいわれがそれぞれ表示板に記されているとのこと。また、坂はこれまで文学作品の中で、大事な要素の一つとして扱われてきたという。夕暮れ時、次第に増してくる寒気を肌を感じながら、明治初期以降の文学の残り香にしばし浸ることができた。

展示見学さらに史跡めぐりと、今回は充実した内容であったという思いを抱いて家路についた。

2007年1月25日(木) 研究会

荒井明夫氏

「大東文化歴史資料館（大東アーカイブス）について — 設立経過と将来像」を聞いて

駒澤大学禅文化歴史博物館大学史資料室 皆川 義孝

第54回全国大学史資料協議会東日本部会研究会は、2007年1月25日（木）に大東文化歴史資料館（大東アーカイブス）を会場に開催

され、大東文化大学の荒井明夫氏による報告を窺った。

大東文化歴史資料館（大東アーカイブス）

の設立までの組織的な流れは、次の通りである。1996年に設置された学長室に報告者の荒井氏が着任し、大東文化大学アーカイブス設立の構想として、「学園関係資史料の収集・整理・保存」を軸に「展示」・「百年史編纂」・「自校史教育」を行いたいことを提案したことにはじまる。1997年には寺崎昌男氏が理事に着任し、「大東にアーカイブスを」を提言している。

この結果、徐々に大学執行部内でアーカイブス設置の理解が高まり、2004年6月にアーカイブス設置に向けたプロジェクトチーム（教員4人、総務部職員2人、寺崎昌男特別顧問）が正式に組織され、2005年1月に『大東文化歴史資料館（略称・大東アーカイブス）』の目的・性格・組織・運営についての答申を理事長に提出するに至った。同年4月には開設準備委員会が組織され、アーカイブス設置に向けて本格的に始動し、2006年4月に大東文化歴史資料館（大東アーカイブス）が正式に発足した。大東文化歴史資料館の組織は、当初、副学長が館長をつとめ、教員7人、学識経験者3人、第一高等学校教員、総務部職員2人であったが、同年8月にはアーカイブスの専門職員1人が増員となった。現在、運営委員会は年史編纂部会と展示部会にわかれ、年史編纂部会は百年史編纂の体制、展示部会は大東文化歴史資料館の展示運営について検討を行っている。アーカイブスの規程は、2006年に「大東文化歴史資料館（大東アーカイブス）規程」を制定しているが、学内の文書保存規程については現在、整備中であるとのことであった。

このように、年史編纂以前にアーカイブスが設立されていることは、大東文化大学のアーカイブスの大きな特徴である。大東文化大学では、これまでに『50年史』『70年史』の編纂が行われてきたが、それぞれの編纂で収集された資史料は散逸してしまった。この経験から、現在進めている『百年史』編纂では収



報告する荒井明夫氏と参加者

集された資史料の散逸を防止することを大きな目的としていたため、年史編纂の前にアーカイブスが設立された。しかし、体制の整備の面では、人員の確保など、残された課題点も多いという。

大東文化歴史資料館（大東アーカイブス）の活動であるが、開設準備委員会当時から展示室が設置されており、大学史の展示活動による学内外の認知度の向上につとめたという。最初の展示は、資料館設置以前の2005年11月のプレ展示「花開く学生文化」であったが、資料館開設後は年2回のペースで展示を行っている。

自校史教育の面では、2006年から総合科目の「現在の大学」として11回の講義を行っている。さらに、広報活動の一環として、2007年1月には『大東文化歴史資料館だより』創刊号（3000部）を刊行している。最後に、資史料の収集活動であるが、現在、他大学の収集状況を確認中であり、2008年度から本格的に収集活動を行う予定であることが報告された。

以上が報告の概要である。質疑応答では、資料収集の方法に関する事項があったが、その上で展示活動が有効であるなどの意見が見られた。他の大学とは違い、年史編纂以前にアーカイブスを設置する場合に関する有意義な情報を得られる研究会であった。

全国大学史資料協議会2006年度
総会議事録・記念講演記録（抄）

日時 2006年10月12日(木)13時～19時30分
場所 広島大学図書館ライブラリーホール
出席 <東日本部会>
愛知大学 神奈川大学 関東学院
慶應義塾 恵泉女学園 皇學館
國學院大學 駒澤大学 上智大学
成蹊学園 専修大学 創価大学
拓殖大学 大東文化大学 中央大学
東海大学 東京経済大学 東北学院
東洋大学 東洋大学校友会
名古屋大学 南山大学 日本体育大学
日本大学 北海道大学 武蔵野美術大学
明治学院 明治大学 立教大学
伊藤 純郎
(筑波大学大学院人文社会科学研究科)
中村 青志 (東京経済大学)
西山 伸 (京都大学)
<西日本部会>
大阪大学 大谷大学 関西大学
関西学院 京都産業大学 甲南大学
神戸松蔭女子学院 神戸女学院
西南学院大学 同志社大学 広島大学
福岡大学 桃山学院 立命館 龍谷大学
橋本 弘之 (元立命館百年史編纂室)
原 登久雄 (元桃山学院年史委員会)

*総計

東日本部会分
<機関>27校(36名) <個人>3名
<合計>39名 <情報交換会>37名
西日本部会分
<機関>15校(21名) <個人>2名
<合計>23名 <情報交換会>23名

*欠席届

東日本部会分12校7名
西日本部会分10校5名

開会 司会 桃山学院 西口 忠氏
(西日本部会庶務)
中央大学 松崎 彰氏
(東日本部会事務局)
開会挨拶 明治大学 鈴木 秀幸氏(会長校)

議長選出

議長 神戸松蔭女子学院大学
池本 文昭氏

副議長 中央大学 吉田 篤子氏

議題

1. 全国大学史資料協議会役員会の報告
について(承認事項)

事務局(桃山学院西口忠氏)より、
全国役員会での審議経過が報告され
た。はじめに、「全国大学史資料協
議会規約」第6条、第3項にもとづ
く役員交代が実施され、新会長に関
西大学(=西日本部会長)、副会長
に明治大学(=東日本部会長)、事
務局には桃山学院(=西日本部会庶
務)が選出(本年4月1日付、任期
2年)されたとの報告があり、全会
一致で承認された。

次に、東西両部会の共同事業とし
て『研究叢書』第8号を刊行し、編
集担当を西日本部会とする件が報告
され、全会一致で承認された。

最後に、大学史資料協議会ホーム
ページ作成の件については、継
続作業として準備を続けたい旨の報
告があり、全会一致で承認された。

2. 2006年度東西両部会事業計画報告
(報告事項)

東日本部会事務局(中央大学松崎
彰氏)・西日本部会庶務(桃山学院西
口忠氏)から、配布資料に基づいて
両部会の本年度事業計画が報告され、
了承された。

3. その他

東日本部会事務局(中央大学松崎
彰氏)より、来年度の総会および全
国研究会は、東日本部会を開催担当
とし、東京にて開催する予定である
との報告があった。

新会長就任挨拶 熊 博毅氏(関西大学)
記念講演 15時00分～17時30分(公開講演)
会場校挨拶 牟田 泰三氏(広島大学学長)

講演

講師 小池 聖一氏 (広島大学文書館長)

演題 「大学文書館における個人文書の位相～広島大学文書館を一例に～」

概要 小池講演は、広島大学文書館所蔵の個人文書を例に、大学文書館における個人文書の意義とその収集、さらには大学文書館のもつ可能性について言及した。

小池氏は、まずはじめに大学の存在に規定される大学文書館のあり方に触れ、今後大学文書館は年史編纂を契機に設立されるのではなく、学園創立者の顕彰やアイデンティティーの確立、または情報公開法などに対応した公文書館的な役割を求められて設置される見通しを示した。その際、前者の理由で大学文書館が設立された場合、個人文書はその中核になるという。

次に広島大学文書館の活動を紹介し、主題である森戸辰男記念文庫をはじめとした当館所蔵の個人文書の概要を詳述した。個人文書の位置づけについては、非現用法人文書を主として取り扱っている国立の大学文書館では、事務局文書などを補完するものと考えられている。しかし、「固有性・個人文書」を重視する傾向にある私立大学や、建学の精神の継承・保存を目的に大学文書館が建てられたときは個人文書が重要視されてゆくことを指摘した。加えて、大学文書館は図書館や博物館といった類似施設とは機能的に異なることを主張し、その違いから差別化・住み分けができるとした。大学文書館の機能を確認したあと、あらためて当館所蔵の個人文書の類型化を行ない収集・活用の事例を報告した。

最後に小池氏は、大学文書館は今後、冒頭に述べた二つの設置理由を軸に展開され、在校生や卒業生また

は地域・社会などと密接に関わる「サービス機関」としての活動もあることに言及した。このとき、大学の個性を反映する個人文書は大学の顔として大いに活用できる点を述べ、さらに、大学の知的財産を使える大学文書館は他の文書館とは異なり教育・研究に資することができること、また、ますます個性化・多様化してゆく大学文書館同士が多角的な連携によって知的基盤を形成し、そうした背景によって様々なアーキビストが養成され得るなど、大学文書館の果たすべき役割・可能性が広がっていることを指摘して講演を締めくくった。

以上、講演の詳細については、『研究叢書』第8号に収録予定の同氏論考を参照されたい。

(神奈川大学 齊藤研也)

見学 講演終了後、広島大学文書館ほかキャンパス内を自由散策。高等教育研究開発センターでは、同センター情報調査室の脇本美樹氏・同関内奈穂子氏のお世話になった。

情報交換会 同日17時30分より、広島大学学士館レセプションホールにおいて、情報交換会を開催した。交換会は、小宮山道夫氏（広島大学文書館）の会場校挨拶、赤堀美和子氏（慶應義塾福澤研究センター・東日本部会副会長）による開会の辞で始まり、花田司氏（関西学院）が乾杯の発声をつとめた。会場は、参加者の活発な情報交換と和やかな会話で盛り上がり、新会員・新参加者の紹介や現状報告など、終始明るい雰囲気にあふれていた。閉会の辞は、中村青志氏（東京経済大学）、司会進行は松崎彰氏（中央大学）であった。

(参加者・60名)

全国大学史資料協議会2006年度
役員会議事録（抄）

（第74回全国大学史資料協議会東日本部会幹
事会議事録）

日 時 2006年10月12日（木）13時～13時30分
場 所 広島大学図書館ライブラリーホール
出 席 （東日本部会）

神奈川大学（運営委員）
慶應義塾（副部会長・会計委員）
國學院大學（監査委員）
成蹊学園（運営委員）
中央大学（運営委員・事務局）
東海大学（運営委員）
東洋大学校友会（運営委員・会計委員）
日本大学（監査委員）
武蔵野美術大学（運営委員・事務局）
明治大学（部会長）
中村 青志（運営委員）
西山 伸（運営委員）

（西日本部会）

関西大学（部会長）
関西学院（広報）
甲南大学（監査）
同志社大学（副会長）
桃山学院（庶務）
立命館（副庶務）
龍谷大学（会計）
広島大学（会場校）

議 事 (1)2006-2007年度協議会役員の交代
について

*「全国大学史資料協議会規約」第
6条、第3項にもとづいて役員交
代を行い、会長を関西大学（＝西
日本部会長）、副会長を明治大学
（＝東日本部会長）とした。また、
役員会の互選により、事務局に桃
山学院（＝西日本部会庶務校）をそ
れぞれ選出した（就任は本年4月
1日付け、任期は2年）。

また、上記の結果を総会に報告
し、その承認を受けることを申し
合わせた。

(2)2006年度総会・全国研究会の運
営について

*会の運営につき、「全国大学史資
料協議会広島大会役割分担案」に
そって挨拶・受付・司会等の担当
者を定め、会場を設営した。

*2007年度全国大会については、東
日本部会が開催担当となり、東京＝
成蹊学園史料館をメイン会場とし
て開催する方針である、との東日
本部会事務局報告があった。

(3)2006年度の東西両部会の共同事
業について

*大学史資料協議会ホームページ作
成の件につき、第2次東日本部会
案が提出されたが、西日本部会案
が作成中のため、両部会の意見調
整を見合わせ、総会において継続
作業の承認を受けることを申しわ
せた。

*『研究叢書』第7号の編集につき、
東日本部会から進捗状況の報告が
あった。

*『研究叢書』第8号については、
編集担当を西日本部会とし、総会
の承認を得ることを申し合わせた。

(4)その他

*明治大学（前会長校）より、国立
公文書館から「アーカイヴズ関係
機関協議会」設置の提案書が届い
ている旨の報告があり、各部会に
て早急に検討することを申し合わ
せた。

—東日本部会幹事会—

*日本体育大学図書館の協議会入会
を本年9月27日付けで承認する。

*神奈川大学より、会報『大学アー
カイヴズ』第35号の編集状況につ
いて報告があった。

*事務局中央大学より、研究会記録
作成の担当順が決まった旨、報告
があった。

*特別事業＝「東日本部会20年史

(仮称)」に掲載するため、総会終了後に記念写真を撮影する旨、村松玄太(明治大学)主査より、報告があった。

**全国大学史資料協議会
東日本部会幹事会議事録(抄)**

第73回 2006年7月13日(木)13時30分～15時
会 場 明治大学駿河台校舎

アカデミーコモン2階A4会議室

出 席 神奈川大学 慶應義塾 國學院大學
成蹊大学 中央大学 日本大学
武蔵野美術大学 明治大学

中村 青志(東京経済大学)

西山 伸(京都大学大学文書館)

議 事 (1)2006年度研究会の運営について

*2006年度研究会について検討し、大学・地域の資料保存機関での研修・見学、各大学に共通するテーマについて展示や刊行物で取り上げた経験を持つ複数大学が問題提起する研究会の開催等の運営方針を計画した。

(2)2006年度・2007年度の全国大会について

*事務局(中央大学)より、2006年度全国大会の準備状況について報告があった。

*東日本部会が開催担当となる2007年度全国大会について審議し、東京にて開催の方針で会場の確保を急ぐこととした。

(3)大学史資料協議会ホームページ作成の件について

*大学史資料協議会ホームページ作成の件につき、「池原私案」を検討の上、東日本部会案として西日本部会に送付し、西日本部会からも同様の部会案を提案して頂いた上で、両部会の意見を調整することとした。

(4)その他

*明治学院歴史資料館の協議会入会を本年6月9日付けで承認する。

*慶應義塾福澤研究センターより、酒井明夫事務長着任のご挨拶があった。

*西山伸氏より、『記録と史料』第16号(全史料協)に掲載された『日本の大学アーカイヴズ』書評の書名誤植の件に付、事後経過の報告があった。

*特別事業＝「東日本部会20年史(仮称)」の編集作業を開始した旨村松玄太(明治大学)主査より、報告があった。

第75回 2006年12月1日(金)13時～14時30分
会 場 文京ふるさと歴史館4階会議室

出 席 神奈川大学 慶應義塾 東海大学
東洋大学校友会 日本大学
武蔵野美術大学 明治大学
中村 青志(東京経済大学)

議 事 (1)2006年度研究会の運営について

*第54回研究会は、2007年1月25日に今年度設置された大東文化歴史資料館(大東アーカイブス)において開催し、同館から設置経緯、活動等について報告をいただいた後、見学することを決定した。

*第55回研究会は、2007年3月に日本大学で開催することを決定し詳細を今後詰めることとなった。

(2)2007年度の全国大会について

*会場校となる成蹊学園史料館との協議の進捗状況が事務局(武蔵野美術大学)から報告され、開催日程を2007年10月11日(木)～13日(土)とすることを決定した。統一テーマ、内容等についても協議し、更に引き続き検討を進めることとなった。なお、2005年度全国研究会と同様に、事前に準備報告会を開催することを決定した。

(3)大学史資料協議会ホームページ

作成の件について

- * 12月5日に開催される西日本部会幹事会での協議の結果を待って両部会の意見を調整することとした。

(4)その他

- * 国立公文書館からの「アーカイヴズ関係機関協議会」設置の提案について、その後の動きを情報収集し会長校に集約し、西日本部会の意見を待って、調整することとした。
- * 会報『大学アーカイヴズ』について、神奈川大学から第35号を10月31日付で刊行し、第36号の編集に入っている旨の報告があった。
- * 『研究叢書』第7号について、東海大学から進捗状況の報告があった。
- * 特別事業＝「東日本部会20年史(仮称)」の編集について、村松玄太主査(明治大学)から出版計画概要の提案があり、タイトルを『全国大学史資料協議会東日本部会二十年の歩み』とし、2008年6月刊行とすることを決定し、併せて内容構成、体裁についても了承され編集実務等に入っていくこととなった。
- * 事務局(武蔵野美術大学)から、東日本部会の封筒がリニューアルされ創立20周年仕様のものになった旨、報告があった。

第76回 2007年1月25日(木)13時～14時30分
会 場 大東文化大学板橋キャンパス2号館
(2F・0219会議室)

出 席 神奈川大学 慶應義塾 國學院大學
中央大学 東海大学 東洋大学校友会
日本大学 武蔵野美術大学 明治大学
中村 青志(東京経済大学)
西山 伸(京都大学大学文書館)

挨 拶 渡部 茂氏(大東文化歴史資料館館長)
議 事 (1)2007年度部会総会の運営について
* 部会総会については、審議時間の

都合上、次回に集中審議することとした。

(2)2007年度の全国大会について

- * 事務局(中央大学)より、昨年末、成蹊学園に施設利用申請を提出した旨の報告があり、成蹊学園史料館より申請が受理されたとの報告があった<開催日程は2007年10月11日(木)～13日(土)>。
 - * 全国研究会の統一テーマについて審議し、「創立期大学史資料の研究と活用」をテーマとして、具体的な分析視角については、次回以降引き続き検討をすることとなった。
 - * 全国研究会の方式は、昨年と同様に全体会方式とし、成蹊学園の大講堂(大正13年竣工)を利用することとした。
 - * 最終日の関係機関見学会について、候補となる機関を検討した。
 - * 各報告者への謝礼について、基準と運用が曖昧になっているとの指摘があり、西日本部会と協議して統一基準を確定することとした。検討の結果、以下の諸点を西日本部会に連絡し、意見を聞くこととした。
 - ・ 会員の範囲は、協議会名簿記載の機関に属する人と個人会員とする。
 - ・ 講演会については、会員・非会員の別なく講演料(含執筆料・交通費等)を支払うべきである。
 - ・ 研究会での発表は、従来通り会員は無料、非会員は謝礼(含執筆料・交通費等)を支払う。
 - ・ 準備報告会での発表は、交通費実費を支給する。
 - * 上記と関連し、過去の大会にて謝礼等の処理に不手際があった事例については、幹事会よりお詫びすることとし、慶應義塾での全国大会における謝礼処理上の不手際を確認した。
- (3)大学史資料協議会ホームページ

作成の件について

- * 事務局（中央大学）より、現在西日本部会幹事会にて作成案を検討中のため、両部会の意見調整は、西日本案を待って協議したい旨の報告があり、継続審議事項とした。

(4)その他

- * 国立公文書館からの「アーカイヴズ関係機関協議会」設置の提案について、西日本部会からの意見をふまえ、協議会間の協力関係を深めつつ、入会については見送ることを決定した。
- * 日本大学より、第55回研究会は、2007年3月15日に開催し、日本大学の活動を事例とした、全員参加方式の討論会としたい旨、報告があり、詳細確定次第、案内状を送付することとした。
- * 会計校（慶應義塾）より、昨年度全国大会（広島大学）の会計報告があり、承認された。
- * 会報『大学アーカイヴズ』について、神奈川大学から第36号の構成案が提示され、了承された。
- * 『研究叢書』第7号について、東海大学から2月上旬に発送予定との報告があった。

全国大学史資料協議会 東日本部会研究会記録（抄）

第51回 2006年7月13日(木)15時～17時
場 所 明治大学駿河台校舎
アカデミーコモン2階A4会議室
出 席 神奈川大学 慶應義塾 國學院大學
自由学園 上智大学 成蹊学園
創価大学 中央大学 日本大学
法政大学 武蔵野美術大学
明治学院 明治大学
東田 全義（名誉会員）
内山 宏（日仏図書館情報学会）
中村 青志（東京経済大学）

西山 伸（京都大学大学文書館）

（以上23名）

会長校挨拶 鈴木 秀幸氏

（明治大学大学史資料センター）

司 会 松崎 彰氏

（中央大学大学史編纂課）

報告要旨 齊藤 研也氏

（神奈川大学大学資料編纂室）

『日本の大学アーカイヴズ』
を読んで」（再）

概 要 討論会『日本の大学アーカイヴズ』

を読んで（第2回）では、3月に開催された第1回で十分に議論尽くせなかった大学史資料の収集、整理、保存、活用に関わる広範な問題点について討論され、特に資料の収集方法について熱い議論がなされた。神奈川大学大学資料編纂室の齊藤研也氏より前回報告の要約があり、その後、「研究対象領域の規定がよく理解できない」という質問を皮切りに、この研究会の研究対象として「大学の資料とはなにか。」「大学アーカイヴズとはなにか。」ということを押さえておく必要があるというところから、その二つを軸に討論は進められた。

まず、各校どのような資料を集めているかを聞く形となり、新規会員校となった明治学院の原豊氏より、収集資料として扱っているものについて話を聞いた。資料の収集方法についての論議では、「寄託」や「廃棄」などが論点に上がり、それらを実施していく上での選定方法や広い分野の史料をどう管理していくかについて、様々な議論がなされた。議論をしていく中で、大学の資料を狭く定義せずに、多様な形のものであってもよい、その資料を大学の実情に合わせてそれぞれが継承しやすい形で、継続的に受けることができる組織を「大学アーカイヴズ」と呼ぶの

ではないかという一つの見解を見いだした。また、資料収集のためにも「公開」していくことこそが重要だという意見に皆同意し、議論を終えた。どういった判断で資料を選定していくかについてはまだ話すべきところがあり、今後も継続的に討論を行いたいという意見で閉会となった。
(武蔵野美術大学 倉持佳代子)

第52回東日本部会研究会

(全国大学史資料協議会2006年度全国研究会)

テーマ 「大学アーカイヴズにおける個人文書～個人文書の整理・公開の現状と課題～」

日時 2006年10月13日(金)～14日(土)

会場 10月13日(金) 広島大学図書館ライブラリーホール
10月14日(土) 呉市海事歴史科学館(大和ミュージアム)

出席 <東日本部会>

愛知大学 神奈川大学 関東学院
慶應義塾 恵泉女学園 皇學館
國學院大學 駒澤大学 上智大学
成蹊学園 専修大学 創価大学
拓殖大学 大東文化大学 中央大学
東海大学 東京経済大学 東北学院
東洋大学校友会 名古屋大学
南山大学 日本体育大学 日本大学
北海道大学 武蔵野美術大学
明治学院 明治大学 立教大学
伊藤 純郎
(筑波大学大学院人文社会科学研究科)

中村 青志(東京経済大学)

<西日本部会>

大阪大学 大谷大学 関西大学
関西学院 京都産業大学 甲南大学
神戸松蔭女子学院 神戸女学院
西南学院大学 同志社大学
広島大学 福岡大学 桃山学院
立命館 龍谷大学
橋本 弘之(元立命館百年史編纂室)
原 登久雄(元桃山学院年史委員会)

*総計

東日本部会分

<機関>26校(35名) <個人>2名

<合計>37名

西日本部会分

<機関>15校(22名) <個人>2名

<合計>24名

活動記録 10月13日(金)10時、広島大学図書館ライブラリーホールにおいて全国研究会を開催した。協議会副会長校鈴木秀幸氏(明治大学)による開会挨拶に続き、小宮山道夫氏(広島大学)より統一テーマの発題があった。今年度の統一テーマは、「大学アーカイヴズにおける個人文書～個人文書の整理・公開の現状と課題」とされ、大学史資料のうち「個人文書」の問題を取り上げ、各大学の実態を通じて諸問題を討議ためにパネルディスカッションを設定したとの説明があった。

パネルディスカッションは3報告からなり、総括討論を含めた司会は、小宮山道夫氏と石田順二氏(武蔵野美術大学)が務めた。

第1報告は、高阪薫氏(甲南大学)の「甲南学園創立者平生鈞三郎日記の教育と研究」であった。甲南学園の創立者平生鈞三郎は、政財界・教育界など様々な分野で活躍した人物で、日記、書簡、雑誌・講演会報の記事など多くの記録を残しているが、そこに記された人生・仕事・社会に対する考え方は後世の多くの人々に示唆・教訓を与えてきた。今日、特に平生の日記(48～80歳)が改めて注目され、教育界・学界等からその重要性が注目されており、甲南学園ではこれらの期待に応えるべく、現在、平生研究会と日記翻刻委員会が協力して出版に向けて翻刻を進めている。高阪氏は、平生日記の翻刻取り組みの概要を中心に、平生の完全

な日記の翻刻出版を目指すことで、教育・研究に生かし広く公開していくつもりであると報告された。高阪氏は、また、平生研究の取り組みにあたっては平生の「負」の部分を隠してはいけなし、学園史資料室の仕事も同様であると付言された。

(日本大学 田渕正和)

第2報告は、玉置栄二氏(桃山学院)の「柳原吉兵衛・貞次郎関係文書の受け入れ・整理・公開」であった。柳原吉兵衛・貞次郎父子は、桃山学院の創設者ではないが、吉兵衛の息子である貞次郎・直次郎兄弟が桃山学院の理事を務めるなど、柳原家と桃山学院とはきわめて深い関係にあったそうである。貞次郎の娘、榎田明子氏から貞次郎関係資料寄贈の申し出があったときに、史料室の独自判断で一括受贈することを決めたという。その後、柳原本家からも吉兵衛関係資料寄贈の申し出があり、1991年8月から1998年2月まで、都合4回に分けて寄贈され、第1回目と4回目は貞次郎関係資料が中心、2・3回目は吉兵衛関係資料が中心であった。

吉兵衛関係の資料内容は、朝鮮総督府・大阪府・大阪市・堺市などが発行した統計書類、キリスト教関係の書籍、教会関係文書、李王家御慶事関係資料、社会事業関係資料、写真、書簡、地図、新聞、雑誌、報告書、ノート、聖書、祈祷書、スクラップブック等々。また貞次郎関係では、著作およびその原稿、家族あるいは関係者との往復書簡、はがき類、英文書簡、世界宗教者大会関係資料、ノート、日記等々という内容であった。

受け取り後直ちに分類・目録作成作業に取り掛かり、2001年3月には一応の目録が完成しているという。

整理事業は諸般の事情から柳原吉兵衛書簡類から手をつけたそうで、コピーをとり、読み下しをし、アクセスによるデータ化をしているという。書簡・はがきの原資料は閲覧できない扱いにしているという。保管に際しては今後中性紙の箱に入れるようにしたいとのことであった。写真資料は業者委託でデジタル化し、現物は中性紙箱で保管しているという。

誰のものであれ個人文書には負の部分が存在するものであり、その部分も含めて文書資料として扱うべきではないかと発表されていた。大学関係者の個人文書の取り扱いについては、各大学とも頭を痛めているところであり、今回の桃山学院の取り組みはかなり参考になるものであった。これからの経過発表にも期待したい。(國學院大學 加藤貞敏)

第3報告は、堀田慎一郎氏(名古屋大学大学文書資料室)「大学文書資料室における個人文書の収集・管理・公開とその問題点」であった。名古屋大学の事例報告は、先の北海道大学で開催された山口拓史氏による「シームレス型文書管理システム」をご記憶の方も多いと思う。今回の堀田氏の問題提起も、その後の名古屋大学における活動からの諸問題との印象をもった。今回の発表は大学アーカイブズのあり方や、他の所蔵資料との関係も視野に入れながら、名古屋大学の事例を中心に、個人文書についての考察であった。

発表は以下の項目立てに整理し行われた。

- 1、大学アーカイブズにおける個人文書の分類とその性格
- 2、個人文書の収集と受け入れ
- 3、整理・公開の方法
- 4、公開基準

1では、まず「個人文書」の定義

について堀田氏は「これだというものはない」とした上で、個人文書を構成する多様性から、それぞれの文書群に応じた議論が必要であり、同時に大学アーカイヴズで所蔵する資料全体を論ずることにつながるとした。2では、堀田氏は大学アーカイヴズの2つの方向性として「京都大学」と「明治大学」をあげ、京都大学を大学文書館・国立大学型（大学の組織としての営みを示す資料収集を重視）、明治大学を史資料センター・私立大学型（大学を構成する諸要素の把握、さらに大学と社会との有機化に重きを置く）と分類している。

またこの両者の融合したものを理念型としている大学が多く、これが日本の大学アーカイヴズの特長としている。その上で、各文書館にとって収集すべき文書の重要度を文書群種類別に述べた。3では個人文書は、事務文書のように明確な階層構造を有していないため、個別に異なった整理方法がとられる場合もあり、様々な種類の資料が混在している。また名古屋大学では新「オンライン検索システム」をまもなく導入するとの説明があった。4では「個人情報保護法」制定のもとで、それぞれの館の設立母体により、対応が分かれるため、その公開制限について論じた。

堀田氏の今回の発表は、論点が良く整理され、我々が日常業務の中で直面する多くの問題点が、整然とまとめられていた。

（成蹊学園 伊藤昌弘）

報告終了後、小宮山・石田両氏の司会で討論に移った。参加者より、3報告に対する個別の質問が多く出され、各報告者より詳細な応答があった。また、関連諸法令の理解を巡っては、相異なる見解も提起され、全体として論点は広がったといえる。

しかしながら、時間の都合上、多様な論点を総括・整理するための議論ができず、残された課題として継続的に検討することを確認して討論を終えた。閉会の挨拶は、西日本部会副会長九鬼弘一氏（同志社大学）、全体の司会進行は、東日本部会事務局松崎彰氏（中央大学）であった。

なお、全国研究会における各報告と討議の詳細については、来年度刊行予定の『研究叢書』第8号収録の各論考を参照されたい。

見 学 呉市海事歴史科学館の見学を行う。

翌10月14日（土）は、呉市海事歴史科学館を訪れて見学会を開催した。

はじめに、海事歴史科学館の戸高一成館長より、開会のご挨拶をいただき、あわせて同館の成り立ちや特色を伺った。続いて、道本幸雄主査より館内施設の概要説明を受けた後、参加者は2班に分れ、同館学芸員齋藤義朗・松下佐知子両氏のご案内で資料収蔵スペースを見学、さらに開催中展示の概要をお聞きし、自由見学を行った。大和ひろばのレプリカは圧巻であり、展示室の「呉の歴史」もテーマの明確な展示であった。資料活用の実例として、多くを学ぶことができた。

末筆ながら、呉市海事歴史科学館の皆様にご心から御礼申し上げます。

（中央大学 松崎 彰）

第53回 2006年12月1日（金）14時30分～17時
場 所 文京ふるさと歴史館
出 席 神奈川大学 慶應義塾 芝浦工業大学
上智大学 東海大学 東京経済大学
東洋大学 日本大学 法政大学
武蔵野美術大学
明治学院 明治大学
東田 全義（名誉会員）
青柳小百合（ニチマイ）
内山 宏（日仏図書館情報学会）

中村 青志 (東京経済大学)
(以上18名)

会長校挨拶 鈴木 秀幸氏
(明治大学大学史資料センター)

概要 今回の研究会は見学会および巡見
ということで、東京都文京区本郷4
丁目にある「文京ふるさと歴史館」
で実施された。同館は、1991(平成
3)年4月の開館。年間行事として
常設展以外に学習企画展・特別展な
どを行うほか、歴史講座(5～6月)
や小・中学生のための歴史教室(8
月)を開催するなど、幅広い年齢層
の区民が文京区の歴史と文化を楽しく
学べるよう活発な活動をしている。

最初に現在開催中の特別展示を見
学、その後常設展示の見学に移り、
最後は文学散歩として樋口一葉を中心
としたいわゆる「菊坂界限」の史
跡めぐりを行った。

地下1階で開催されている特別展
「徳川御三家江戸屋敷発掘物語—水
戸黄門邸を探る—」は、学芸員の加
藤元信氏に案内と説明をしていただ
いた。展示の特色は、水戸徳川家の
江戸藩邸の実態を発掘調査の成果を
中心に明らかにしていることと、小
石川屋敷の附属庭園であった後楽園
が、例えば日本を訪れた朝鮮通信使
の接待の場としての役目を果たすな
ど、一般にあまり知られていないそ
の歴史と文化を紹介していることだ
である。

1階と2階の常設展示の案内と説
明は、学芸員の東條幸太郎氏にして
いただいた。1階は、本郷弥生町か
ら出土した有名な弥生式土器、江戸
の武士や町人たちの暮らしぶりを再
現した展示などをはじめとして、近
現代にいたるまでの文京区の歴史を
概観できるようになっている。2階
はテーマごとに展示がなされており、
特に「文教のまち」の礎を築いた学者

や文人たちの著書や書簡など貴重な
資料が展示されているのが目を引く。

館内の展示を見学後、東條氏の案
内により歴史館作成の「史跡地図」
を片手に、樋口一葉、宮沢賢治、石
川啄木、徳田秋声など著名な文人た
ちゆかりの史跡を巡見。盛りだくさ
んの内容で、大変に充実した研究会
となった。(東洋大学 豊田徳子)

第54回 2007年1月25日(木)14時30分～17時
場所 大東文化大学板橋キャンパス2号館
(2F・0221会議室)

出席 青山学院 神奈川大学 慶應義塾
國學院大學 駒澤大学 芝浦工業大学
上智大学 成蹊学園 大東文化大学
中央大学 東海大学 東京経済大学
東洋英和女学院 東洋大学校友会
日本体育大学 日本大学 法政大学
武蔵野美術大学 明治大学
東田 全義 (名誉会員)
青柳小百合 (株・ニチマイ)
谷本 宗生 (東京大学史史料室)
中村 青志 (東京経済大学)
西山 伸 (京都大学大学文書館)
(以上35名)

会長校挨拶 鈴木 秀幸氏
(明治大学大学史資料センター)

司会 松崎 彰氏
(中央大学大学史編纂課)

報告 荒井 明夫氏
(大東文化大学教授)
「大東文化歴史資料館(大東アー
カイブス)設置経緯と活動」

見学会 宮瀧 交二氏
(大東文化大学専任講師)

概要 はじめに、荒井明夫教授から大東
文化歴史資料館(大東アーカイブス)
設立の経緯と将来像についての報告
をうかがった。

大東文化大学でアーカイブス設立
に向けた運動が始まったのは、荒井
教授が学長室に着任した1996年であっ

た。この時「学園関係資料の収集・整理・保存」を軸に、「展示」・「百年史編纂」・「自校史教育」をおこなう機関としてアーカイブスの設立を提言したのである。その翌年、寺崎昌男氏が大学の理事に就任し、アーカイブス設立の提言をおこなったことも後押しとなり、2004年から本格的な設立準備がはじまって、2006年4月に大東文化歴史資料館が発足した。アーカイブスの実現には、学内の認知と協力を得ることが重要だが、そのために大きな効果を持ったのが、「展示」と「自校史教育」の実施であった。設立以前に両事業を実施したことで、学内の認知を高めることができ、執行部の強力なサポートのもとに資料館を設立することができた。

今後の課題としては、①本格的な資料収集を開始し、②物・人両面にわたる環境を整備するいっぽう、③学内世論へのPRを続けてアーカイブスへの認知を高め、④来るべき百年史編纂の体制を構築することがあげられた。資料については、学内外の関係資料とともに、OBへのインタビューを実施したいと考えているとのことであった。

将来は、小規模キャンパスに所在するアーカイブスとして可能な形で文書管理体制の構築に関わっていくとともに、大学の特色である漢学史・政治史との深い関わりのなかに大東文化大学を位置づけ、キャンパス所在地との関係についても整理していきたいとの展望がしめされた。

質疑応答では、年史編纂との関係や資料収集方法などにつき議論と事例報告があった。その後、坂田好次総務課長から設立の経緯に関する補足説明とキャンパスの概要につき説明をうけ、荒井教授の案内のもと板

橋キャンパスを見学した。

最後に、研究会開催にご尽力下された大東文化歴史資料館の渡部茂館長、田中恵子、浅沼薫奈の皆さん、また、ご多忙中にもかかわらず種々ご指導下された荒井明夫、兵頭徹、宮瀧交二の各先生方、キャンパスをご案内下さった坂田好次総務課長の各位に、末筆ながら御礼申し上げます。(東海大学 加瀬 大)

全国大学史資料協議会東日本部会規約

(名 称)

第1条 本会は、全国大学史資料協議会東日本部会と称する。

(目 的)

第2条 本会は、全国大学史資料協議会を構成する部会として、大学史に関する情報交換と研究、並びに会員相互の質的向上と交流をはかることを目的とする。

(事 業)

第3条 前条の目的を達成するため次の事業を行う。

- (1)大学史に関する情報交換
- (2)史資料の収集、保存、利用に関する研究
- (3)研究会(研修会)、講演会の開催
- (4)会報等の発行
- (5)その他、前条の目的遂行に必要な事項

(会 員)

第4条 会員は、この規約の趣旨に賛同する東日本の大学・短期大学等をもって構成する。

2. 個人会員については別に定める。

(入・退会)

第5条 入会は、所定の入会申込書を会長に提出し、幹事会の承認を受ける。

2. 退会は、書面により会長に届出る。

(名誉会員)

第6条 本会に名誉会員をおくことができる。

2. 名誉会員の推薦は、総会において行う。

(幹事)

第7条 本会に次の幹事をおく。

- (1)会長 1校
- (2)副会長 1校
- (3)運営委員 若干
- (4)会計委員 2校
- (5)監査委員 2校

(幹事の職務)

第8条 会長は本会を代表し、会務を掌握する。

2. 副会長は会長を補佐し、会長に支障ある時はその職務を代行する。
3. 運営委員は本会の運営につき審議・執行する。
4. 会計委員は本会の会計を担当する。
5. 監査委員は本会の経理を監査する。
6. 幹事は、全国大学史資料協議会を構成する西日本部会幹事とともに、全国協議会の役員会を構成し、その運営を協議・決定する。

(幹事の選出及び任期)

第9条 幹事は総会で選出し、任期を2年とする。但し再任は妨げない。

(会議)

第10条 本会に次の会議をおく。

- (1)総会
- (2)幹事会
- (3)委員会

(総会)

第11条 総会は、通常総会及び臨時総会とする。

2. 通常総会は、年1回(5月)開催する。
3. 臨時総会は、幹事会が必要と認めたとき、もしくは、会員校の三分の一以上の要求があったときに開催する。
4. 総会は会長が招集し、議長は会員校中から選出する。
5. 総会は、会員校の過半数の出席をもって成立し、審議は出席校の過半数をもって決す。可否同数のときは、議長の決するところによる。

なお、欠席届をもって委任状とみなすことができる。

但し、その場合、議決権は認めない。

6. 総会は、次の事項を審議する。

- (1)事業計画及び事業報告
- (2)予算及び決算
- (3)その他重要な事項

7. 総会における決定事項は、全国大学史資料協議会の総会に報告しなければならない。

(幹事会)

第12条 幹事会の構成は、会長、副会長、運営委員、会計委員とし、監査委員は出席して意見を述べることができる。

2. 幹事会は会長が招集し、会の常務について審議する。
3. 議長は会長が務め、議決は三分の二以上を要する。

(事務局)

第13条 事務局は、幹事の互選により選出された大学におく。

2. 事務局は、会事務全般を担当する。
3. 事務局は、全国大学史資料協議会を構成する西日本部会事務局とともに、全国協議会事務全般を担当する。

(委員会)

第14条 幹事会の会務執行上、必要に応じて委員会を設けることができる。

2. 委員会については、別に定める。

(経費・会計)

第15条 本会の経費は、会費及びその他の収入をもってあてる。

2. 会費は、1会員校につき年額20,000円とする。
3. 会費は、毎年7月末日までに、その年度分を納入しなければならない。年度途中において加入した会員は、その1ヶ月後までに納入することとする。納入された会費は返却しない。
4. 会費を2年以上滞納した会員は、退会扱いとする。

(事業年度及び会計年度)

- 12 駒澤大学 禅文化歴史博物館大学史資料室
〒154-8525 世田谷区駒沢1-23-1
電話:03-3418-9614
FAX :03-3418-9611
URL :<http://www.komazawa-u.ac.jp/~zenbunka>
- 13 芝浦工業大学 広報課80周年史編纂担当
キャリアサポート課80周年史編纂担当
〒135-8548 江東区豊洲3-7-5
電話:03-5859-7070 (広報課)
FAX :03-5859-7071 (広報課)
電話:048-687-5109 (福川)
FAX :048-687-5018 (福川)
URL :<http://www.sibaura-it.ac.jp>
- 14 実践女子学園 総務部
〒191-8510 日野市大坂上4-1-1
電話:042-585-8800
FAX :042-585-8808
- 15 自由学園 自由学園資料室
〒203-8521 東久留米市学園町1-8-15
電話:042-422-3111 (内)217
FAX :042-422-1078
URL :<http://www.jiyu.ac.jp>
- 16 上智大学 総合調整室別室
〒102-8554 千代田区紀尾井町7-1
電話:03-3238-3294
FAX :03-3238-3539
- 17 聖学院 本部理事長室
〒114-8574 北区中里3-12-2
電話:03-3917-8332
FAX :03-3940-3798
- 18 成蹊学園 史料館
(運営委員)
〒180-8633 武蔵野市吉祥寺北町3-3-1
電話:0422-37-3994
FAX :0422-37-3704
URL :<http://www.seikei.ac.jp>
- 19 成城学園 教育研究所
〒157-8511 東京都世田谷区成城6-1-20
電話:03-3482-1484
FAX :03-3482-5272
URL :<http://www.seijogakuen.ed.jp/>
- 20 専修大学 総務部大学史資料課
〒101-8425 千代田区神田神保町3-8
電話:03-3265-5879
FAX :03-3265-5923
- 21 創価大学 創価教育研究所
〒192-8577 八王子市丹木町1-236
電話:042-691-5623
FAX :042-691-5654
- 22 拓殖大学 創立百年史編纂室
〒112-8585 文京区小日向3-4-14
電話:03-3947-7140
FAX :03-3947-7294
- 23 玉川大学 教育博物館
〒194-8610 町田市玉川学園6-1-1
電話:042-739-8656
FAX :042-739-8654
URL :<http://www.tamagawa.jp/research/museum/>
- 24 多摩美術大学 大学史編纂室
〒158-8558 世田谷区上野毛3-15-34
電話:03-3702-1168
FAX :03-3702-9416
- 25 大東文化大学 大東文化歴史資料館
(大東アーカイブス)
〒175-8571 板橋区高島平1-9-1
電話:03-5399-7309
FAX :03-5399-7310
- 26 千葉商科大学 総務課史料編纂担当
〒272-8512 市川市国府台1-3-1
電話:047-372-4111
FAX :047-373-4283
- 27 中央大学 大学史編纂課
(運営委員・事務局)
〒192-0393 八王子市東中野742-1
電話:0426-74-2132 (直)
FAX :0426-74-2203
- 28 津田塾大学 津田梅子資料室
〒187-8577 小平市津田町2-1-1
電話:042-342-5219
FAX :042-342-5249
- 29 東海大学 学園史資料センター
(運営委員)
〒257-0003 秦野市南矢名3-10-36
東海大学同窓会館 2 F
電話:0463-50-2450
FAX :0463-50-2449
- 30 東京基督教大学 歴史資料保存委員会
〒270-1347 印西市内野3-301-5-1
電話:0476-46-1131
FAX :0476-46-1405
URL :<http://www.tci.ac.jp/index.html>
- 31 東京経済大学
〒185-8502 国分寺市南町1-7-34
電話:042-328-7955
FAX :042-328-5900
URL :<http://www.tku.ac.jp>
- 32 東京女子医科大学
史料室・吉岡彌生記念室

- 〒162-8666 新宿区河田町8-1
 電話:03-3353-8111 (内22213)
 FAX :03-3353-8209
 URL :http://www.tvmu.ac.jp/U/facilities/f06yayoi.html
- 33 東京女子大学
 大学運営部総務・企画広報課 大学資料室
 〒167-8585 杉並区善福寺2-6-1
 電話:03-5382-6289 (直通)
 FAX :03-3395-1037
 URL :http://office.twcu.ac.jp/o-board/archives
- 34 東京電機大学
 創立100周年記念事業推進本部
 〒101-8457 千代田区神田錦町2-2
 電話:03-5280-3723
 FAX :03-5280-3740
 URL :http://www.dendai.ac.jp/
- 35 東京農業大学 図書館
 〒156-8502 世田谷区桜ヶ丘1-1-1
 電話:03-5477-2525
 FAX :03-5477-2639
- 36 東北学院 法人事務局庶務部広報課
 〒980-8511 仙台市青葉区土樋1丁目3-1
 電話:022-264-6423 (代表)
 FAX :022-264-6478
 URL :http://www.tohoku-gakuin.ac.jp
- 37 東北大学 史料館
 百年史編纂室
 〒980-8577 仙台市青葉区片平2-1-1
 電話:022-217-5040 (史料館)
 022-217-5042 (百年史)
 FAX :022-217-4998
 URL :史料館
 http://www.archives.tohoku.ac.jp
 URL :百年史
 http://www.archives.tohoku.ac.jp/hensan
- 38 東洋英和女学院 法人事務局 史料室
 〒106-8507 港区六本木5-14-40
 電話:03-3583-3325 (代)
 FAX :03-3583-3329 (直)
 URL :http://www.toyoeiwa.ac.jp
- 39 東洋大学 井上円了記念学術センター
 〒112-8606 文京区白山5-28-20
 電話:03-3945-7555
 FAX :03-3945-7601
 URL :http://www.toyo.ac.jp/enryo/
- 40 東洋大学校友会
 (運営委員・会計委員)
 〒113-0021 文京区本駒込1-10-2
 浦水会館内
- 電話:03-3946-9111
 FAX :03-3946-6311
 URL :http://www.toyo.ac.jp/koyukai/
- 41 獨協学園 本部事務局総務部
 〒340-0042 草加市学園町1-1
 電話:048-946-1631
 FAX :048-942-4312
 URL :http://www2.dokkyo.ac.jp/~found120/index.htm
- 42 名古屋大学 大学文書資料室
 〒464-8601 名古屋千種区不老町
 電話:052-789-2046
 FAX :052-788-6222
 URL :http://nua.jimu.nagoya-u.ac.jp
- 43 南山大学 大学史料室
 〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18番地
 電話:052-832-3111 (内382・385)
- 44 日本工業大学 総務課
 〒345-8501
 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1
 電話:0480-34-4111 (代)
 FAX :0480-34-2941
- 45 日本女子大学 成瀬記念館
 〒112-8681 文京区目白台2-8-1
 電話:03-5981-3376
 FAX :03-5981-3378
 URL :http://www.jwu.ac.jp/
- 46 日本体育大学 図書館課
 〒158-8508 東京都世田谷区深沢7-1-1
 電話:03-5706-0907
 FAX :03-5706-0913
- 47 日本大学 総務部大学史編纂課
 日本大学資料館 (仮称) 設置準備室
 (監査委員)
 〒102-8275 千代田区九段南4-8-24
 電話:03-5275-8136 (編纂課)
 03-5275-8336 (準備室)
 FAX :03-5275-8325 (編纂課)
 03-5275-9410 (準備室)
 URL :http://www.nihon-u.ac.jp
- 48 法政大学 図書館事務課総務課大学史担当
 〒102-8160 千代田区富士見2-17-1
 電話:03-3264-9365
 FAX :03-3264-9258
- 49 北海道大学 大学文書館
 〒060-0808 札幌市北区北8西5
 北海道大学附属図書館内(4階)
 電話/FAX:011-706-2395 (内線2395)
 URL :http://www.hokudai.ac.jp/bunsyo/

- 50 宮城学院 資料室
〒981-8557 仙台市青葉区桜ヶ丘9-1-1
電話:022-279-7765
FAX :022-279-4707
URL :http://www.mgu.ac.jp
- 51 武蔵学園 記念室
〒176-8533 練馬区豊玉上1-26-1
電話/FAX:03-5984-3748
URL :http://www.musashi.jp/archives
- 52 武蔵野美術大学 大学史史料室
(運営委員・事務局)
〒187-8505 小平市小川町1-736
電話:042-342-6091
FAX :042-342-9547
URL :http://www.musabi.ac.jp/history
- 53 明海大学 浦安キャンパス
メディアセンター (図書館)
〒279-8550 千葉県浦安市明海8
電話:047-355-4997
FAX :047-355-7992
URL :http://opac.meikai.ac.jp/
- 54 明治学院 歴史資料館
〒108-8636 港区白金台1-2-37
電話:03-5421-5170
- 55 明治大学 大学史資料センター
(部会長)
〒101-8301 千代田区神田駿河台1-1
電話:03-3296-4085・4329
FAX :03-3296-4086
URL :http://www.meiji.ac.jp/history/
- 56 立教女学院 学院資料室
〒168-8616 東京都杉並区久我山4-29-60
電話:03-3334-5105
FAX :03-3334-8393
URL :http://www.rikkyo.ne.jp/grp/jogakuin-shiryo/
- 57 立教大学 立教学院史資料センター
〒171-0021 豊島区西池袋3丁目
電話/FAX:03-3985-2790
- 58 立正大学 総務部総務課
〒141-8602 品川区大崎4-2-16
電話:03-3492-2681
FAX :03-5487-3338
URL :http://www.ris.ac.jp
- 59 早稲田大学 大学史資料センター
〒169-8050 新宿区西早稲田1-6-1
電話:03-5286-1814
FAX :03-5286-1815
URL :http://www.waseda.jp/archives/

- 個人会員
- 1 青柳小百合 ((株)ニチマイ)
 - 2 秋山 俱子 (元日本女子大学成瀬記念館)
 - 3 安藤 正人
(大学共同利用機関法人人間文化研究機構
国文学研究資料館アーカイブズ研究系)
 - 4 石原 一則 (神奈川県立公文書館)
 - 5 伊藤 純郎
(筑波大学大学院人文社会科学研究科)
 - 6 上田 紘代
(東京女学院中学校・高等学校)
 - 7 内山 宏 (日仏図書館情報学会)
 - 8 大沢 泉 (八戸大学商学部)
 - 9 小川千代子 (国際資料研究所)
 - 10 神谷 智 (愛知大学文学部)
 - 11 北村 和夫 (聖心女子大学文学部)
 - 12 坂口 貴弘 (慶應義塾大学(院))
 - 13 谷本 宗生 (東京大学史史料室)
 - 14 寺崎 弘康 (神奈川県立歴史博物館)
 - 15 中村 青志 (運営委員・東京経済大学)
 - 16 中村 治人 (岡崎女子短期大学)
 - 17 中村 頼道 (企業史料協議会)
 - 18 西山 伸
(運営委員・京都大学大学文書館)
 - 19 日露野好章
(東海大学課程資格教育センター博物館学)
 - 20 藤田 正 (愛媛県歴史文化博物館)
 - 21 古郡 信幸 (清泉女子大学学務課)
 - 22 細井 守
(藤沢市教育委員会博物館準備担当)

ご 案 内

全国大学史資料協議会及び同協議会東日本部会に関するお問い合わせ、入会申し込みは、下記へご連絡ください。

【中央大学・大学史編纂課】

〒192-0393 八王子市東中野742-1
☎ 0426-74-2132

【武蔵野美術大学・大学史史料室】

〒187-8505 東京都小平市小川町1-736
☎ 042-342-6091

会 報 編 集

【神奈川大学・大学資料編纂室】

〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋3-27-1
☎ 045-481-5661